

下肢閉塞性動脈疾患における Trans ankle intervention がもたらす患者ストレスの低減効果と看護業務改善に対する検討に関する研究

1. 研究の対象

2023年8月1日～2023年11月7日に下肢血管内治療(EVT)を受けられた方
2023年11月8日以降は説明書により説明し、同意を取得致します。

2. 研究目的・方法

目的: 総大腿動脈アプローチと比較して Trans ankle intervention (TAI) 術後における定期的な創部チェック、長時間安静に伴う疼痛管理、食事介助、排泄介助などの患者、看護師双方のストレス改善、業務軽減効果の検討

方法: 2023年8月1日以降にEVTを実施した患者全例に対してNRSを用いたストレス評価アンケートを実施する。アンケート実施までに、患者にはTFA、TAIの治療方法を事前に説明した上でアンケートに回答頂く。また看護師側にもNRSを用いたストレス評価アンケートを実施する。アンケート内容は、「術中疼痛の評価」、「術後疼痛の評価」、「術後の安静度の辛さ」、「食事の困難の程度」、「排便の困難の程度」、「睡眠の困難の程度」、「翌日の歩行の困難の程度」、「治療の満足度に関して」の8項目。

看護側のアンケートとして、「排泄ケアの評価」、「食事ケアの評価」、「疼痛ケアの評価」、「穿刺部ケアの評価」、「術後のコール対応の評価」、「術後合併症・トラブル対応」、「今回のアプローチで仕事量は減ったか」の7項目。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 患者基本情報: 「年齢」、「性別」、「身長」、「体重」、「BMI」、「喫煙」、「身体活動度」、「既往歴」、「服薬歴」、「EVT治療データ」、「術後合併症」
- 2) 血液データからは「Cre」、「Hb」、「Alb」、「Plt」、「CRP」、「凝固能検査」。画像検査、生理学検査。
- 3) 治療内容 (カテーテルインターベンション、外科的治療など)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

京都中部総合医療センター 患者相談係 和田 直敏

研究責任者: 京都中部総合医療センター 和田 直敏

-----以上